

第9回

# 佐倉の第

# 9

# 演奏会

～市民の第9～

ブラームス

運命の歌 op.54 (合唱と管弦楽曲)

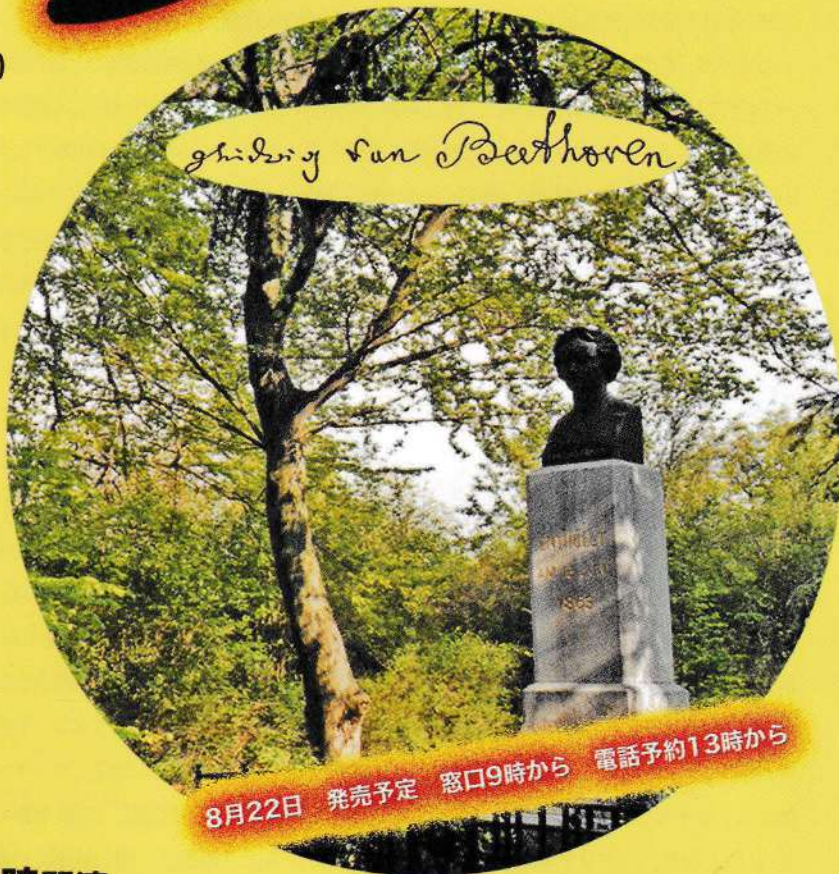
ベートーヴェン

交響曲第9番 二短調  
op.125 合唱付き

指揮：三原明人

佐倉フィルハーモニー管弦楽団  
佐倉第九合唱団 (合唱指揮：若林浩)

相京利枝(ソプラノ)  
猪村雅子(メゾ・ソプラノ)  
秋山健治(テノール)  
若林 浩(バリトン)



2008年12月14日(日) 午後2時開演  
会場：佐倉市民音楽ホール

(京成うすい駅南口徒歩4分)

全席指定 2500円 学生 1000円

● プレイガイド：しぶや(京成佐倉駅南口) TEL 043-485-8336 JR佐倉駅前観光情報センター TEL 043-485-9700

主催・お問い合わせ：



佐倉市民音楽ホール

TEL 043-461-6221

協力：佐倉市合唱連盟

\*身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は学生料金にてご購入いただけます。  
また付き添いが必要な場合には、お一人様まで学生料金でご購入いただけます。  
\*未就学児のご入場はお断りいたします。無料託児室がございますので、利用される方は公演の2週間前までにご予約ください。  
\*環境保護のため、ご来場にはなるべく公共交通機関をご利用ください。



● **三原明人 (指揮)** 東京藝術大学でヴィオラを専攻、桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮を学ぶ。小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン、ゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、モーシェ・アツモンなど著名な指揮者に師事。

1989年、第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで第2位。同年、アムステルダムでチャイコフスキーの交響曲「悲愴」でデビュー。1989/1990年のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務める。以来、日本、ヨーロッパ、アメリカで活躍中。主要な演奏会は、1995年6月にフィンランド・クオピオ管弦楽団ベートーヴェン特別演奏会で「交響曲第2番、第9番」を指揮、1996年10月、再度、同管弦楽団定期演奏会で、武満徹作品集とシベリウスの「交響曲第2番」を指揮。さらに1997年、フィンランド独立80周年記念公演で、ベートーヴェン「交響曲第9番」を指揮する。1998年、ブルガリアのソフィア・フィル定期演奏家会で、ベートーヴェン、ブラームスなどの交響曲を指揮して大成功を取めた。2003年、阪神大震災被災児救援チャリティーコンサートで、十河陽一郎作曲「木漏れ日、そして祈り」の初演を指揮、2004年、京都フィル定期演奏会で、ピニャオ作曲「マリッパ協奏曲」の日本初演など現代音楽プログラムで絶賛された。

「佐倉の第九」には第1回から関わっており、今回で8回目の指揮となる。松戸市在住。

● **相京利枝 (ソプラノ)** 国立音楽大学声楽科に進学。在学中、国立室内オペラのウェーバー「アブ・ハッサン」ファティーマ役に抜擢される。1985年日本演奏家連盟オーディションに合格し、東京文化会館小ホールにてジョイント・リサイタルを行う。その後、二期会公演モーツァルトのオペラ「魔笛」をはじめ数々のオペラに出演。中でも東京室内歌劇場による日本初演のピッチェニのオペラ「ラ・チェッキーナ」サンドリーナ役では、「芸達者な相京利枝」と朝日新聞で絶賛された。落語をオペラ化した関戸道成作曲「芝浜」では、女房役を好演し、この作品の周知に貢献した。1993年2月の再演にも出演。1993,1994年ドイツのフライブルグにおいて、独日協会主催の「日本人祭り」で、日本歌曲を歌い好評を得る。2004年7月、津田ホールで日本歌曲、イタリア歌曲のプログラムによる第15回リサイタル、2008年7月に日本大学カザルスホールにて第19回リサイタルを行う。NHK-FM放送、テレビ出演の他、最近ではシャンソン、カンツォーネ、ミュージカルにも挑戦し、幅広いキャラクター性を発揮している。CDは「美しき日本を歌う 春夏秋冬」、日本で初めてチェンバロ伴奏で歌った日本歌曲集「雅、話題となった「慈炎華」、イタリア古典歌曲集「スマイレ色の宝宝箱」がある。二期会会員。日本演奏家連盟会員。茂原市出身。

● **猪村佳子 (メゾ・ソプラノ)** 東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。青木美雅子、戸田敏子、高橋大海の各氏に師事。二期会オペラスタジオ、国府台女子学院講師を経て、1990年に渡米し、サンフォード・シルヴァンに師事する。これまでに、数多くのオペラ、コンサートで活躍しているが、主なものでは、栗山昌良演出によるモーツァルトのオペラ「魔笛」で童子3、青島広志のオペラ「黄金の国」で「天の声」、ひろしまオペラアンサンブル公演の尾上和彦のオペラ「ヤカモチ」で「堅香子の精」を演じている。コンサートでは、バッハ「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのアルトソロを務めている。またサロン・コンサートなどの出演も多い。2004年から2006年まで、千葉県文化振興財団主催のアリア&トークコンサートに出演。これまでに多くの合唱団で発声の指導に当たっており、現在は、四街道合唱団でヴォイストレーナーを務めている。佐倉市内でも、小学校で声楽を指導するほか、2005年より二期会のメンバーとともに研究会を発足させ活動を続けている。「佐倉の第九」には前回に続いての出演となる。二期会会員。佐倉市在住。

● **秋山健治 (テノール)** 東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ベートーヴェン「合唱幻想曲」のソリスト、ヤナーチェクのオペラ「マクロプロス事件」(日本初演)のグレゴル役、ビゼーのオペラ「カルメン」ホセ役、プッチーニのオペラ「トスカ」カヴァラドッシ役、オペラ「ラボエム」ロドルフオ役、神田慶一作曲オペラ「銀河鉄道」青年役で活躍。1998年からイタリア留学。翌年、国際声楽家協会のオーディションで1位となり、イタリア各地にてオペラ「ラ・ボエム」、「椿姫」、「愛の妙薬」、「蝶々夫人」、「リゴレット」、「ドン・バスクワーレ」等の主役を演じる。また、チェレセート吹奏楽団によるヴァイオリンとのデュオコンサート、モーツァルト「ミサ・プレヴィス」のソリスト、ミラノ・ジョランダでリサイタルを行う。ドイツ・ウェスターランドではポーランド・シンフォニー・オーケストラによる4夜連続3人のテノール饗宴と活躍し、いずれも好評を博した。2007年帰国。千葉で小林研一郎指揮「第九」でソリストを務めるなど、数多くのオペラ、コンサート、リサイタル、合唱指導と活発な演奏活動を展開している。ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ合唱団所属。千葉市在住。

● **若林 浩 (バリトン)** 県立佐倉高等学校卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科で学び、同校を卒業。声楽を畑中良輔、竹沢嘉明の両氏に師事。指揮法を高階正光氏に師事する。1985年ウィーンに留学、マリア・S・ザウアー女史のもとで学ぶ。教職のかたわら声楽活動を続けており、毎年ウィーンで声楽の研鑽を続けている。音楽活動は、東京室内歌劇場公演のオペラ「燃える炉」「服死をこえて」をはじめ、バッハ「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「マニフィカト」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのソリストとして活躍している。1989年からリサイタルも継続的に行っており、2001年にはシューベルト「冬の旅」をとりあげた。合唱団の指揮者としては合唱団コール・ドリーム、成田楽友協会合唱団の常任指揮者を務めている。「第九」の合唱指導では定評があり、習志野、成田をはじめ県内各地の「第九」演奏会に関わり、ソリストとしても出演している。千葉県合唱連盟理事。「佐倉の第九」では、第1回から合唱の指導にあたりソリストとしても今回で7回目の出演となる。千葉市在住。